

# いわき農林水産ニュース

(ごちそう ふくしま絆づくり運動ニュース)

11月号 発行 平成24年11月30日



## 東日本大震災関連



### いわき地方の農林畜産物 モニタリング調査結果

福島県が行ったいわき地方の10月の農林畜産物の放射性物質モニタリング調査結果をお知らせします。

調査した18品目86検体のうち、12品目71検体は、検査機器の検出限界値以下でした。基準値内で検出があったものは、5品目(玄米、サツマイモ、カキ、菌床しいたけ(施設)、原木しいたけ(施設))の14検体、基準値を超えたものはクリ1品目、1検体でした。品目としては、畜産物や原乳の検体すべてにおいて検出が認められませんでした(表1、2)。11月12日現在、いわき地方産の農林畜産物で出荷が規制されているのは、ユズ、クリ、たけのこ、ぜんまい、たらの芽(野生のものに限る。)、わらび、こしあぶら、野生きのこ、原木なめこ(露地栽培)となっています。

また、平成24年産の米は、全袋検査を実施しており、10月中の検査袋数は、262,494袋でした。検査の結果99.8%の262,042袋が測定機器の検出限界値以下、452袋が基準値内で検出が確認されました。これらの調査結果は、福島県のホームページ「ふくしま 新発売。」とふくしまの恵み安全対策協議会のホームページで簡単に検索できますので、ご利用ください。

(表1) 農林畜産物の調査結果(10月)

| 放射性物質が検出されなかった品目と検体数 | 放射性物質が検出された品目と検体数 |                | 計            |
|----------------------|-------------------|----------------|--------------|
|                      | 基準値内で検出された品目と検体数  | 基準値を超過した品目と検体数 |              |
| 12品目<br>71検体         | 5品目<br>14検体       | 1品目<br>1検体     | 18品目<br>86検体 |

(表2) 1点も放射性物質が検出されなかった品目

|            |               |
|------------|---------------|
| ・シントウガラシ 1 | ・トマト(施設) 2    |
| ・ショウガ 1    | ・ブロッコリー 1     |
| ・ナガイモ 1    | ・原木ひらたけ(施設) 1 |
| ・サトイモ 1    | ・菌床なめこ 1      |
| ・ゴボウ 1     | ・牛肉 47        |
| ・ダイコン 1    | ・原乳 5         |



### 農村整備環境技術検討会 現地調査について

ほ場整備などの農業農村整備事業を実施する際には環境への配慮が求められているため、県では農村整備環境技術検討会を開催し、環境への配慮が適切かどうかなどの意見交換を行い、事業の円滑な推進を図っています。

10月17日(水)、委員6名により現地検討会が行われました。

今回現地調査が行われたのは、東日本大震災による津波により被災した四倉町下仁井田、平夏井、錦町・勿来町関田の3地区であり、東日本大震災復興交付金を活用した県営ほ場整備事業を計画しています。


この事業は、1区画が10a程度以下の狭い田畑や狭い農道、屈曲した水路を、大区画ほ場や拡幅した農道、真っすぐな水路として整備し、農業生産性の向上や担い手農家への農地利用集積を促進することにより、津波被災地域の復興を図ることを目的とするものです。

現地調査では、3地区とも、まず、県の担当者から、付近に海岸や河川・池沼、防潮林等の豊かな自然環境と接しているため、施工の影響を最小限とする水路や池を作る計画であることを説明しました。

これに対し、委員からは、希少生物等の生息が確認された場合には「引越し」により動植物の保護を図ることや、可能な限り環境に配慮した水路等を設置することが動植物の生息につながることなどの助言があり、これらの助言を踏まえ、被災地域の農業再生と環境整備が両立できるほ場整備を推進していきたいと考えています。



(現地調査の様子)



## 農林漁業者等との 福島県農林水産業の 振興に関する意見交換会 を開催しました

10月18日(木)、県いわき合同庁舎4階大会議室で「農林漁業者等との福島県農林水産業の振興に関する意見交換会」を開催しました。

東日本大震災や原子力災害による福島県を取り巻く環境の重大かつ急激な変化に対応した福島県農林水産業振興計画の見直し作業にあたり、いわき地域の農林漁業者等の皆さんの意見を伺い、振興計画に反映させるのが目的です。


意見交換会では、はじめに、戸井田いわき農林事務所長から「今後の福島県農林水産業の目指すべき姿や今後、県が取り組むべき対策について意見をいただきたい。」とあいさつがあり、次に、県の担当者が振興計画見直し案の概要を説明した後、意見交換に入りました。

参加者からは、「農業の担い手が今回の東日本大震災や原子力災害に伴う風評被害でますます少なくなっている。」(農業関係者)、「県産木材価格が風評被害で低迷している。県産木材の利用促進を図る施策をお願いしたい。」(林業関係者)、「福島第一原子力発電所の汚染水が放出されれば、ずっと漁ができなくなる。放出に反対する文言を入れていただきたい。」(水産関係者)、「生産、加工、流通、消費の流れを考えなければならない。消費者という部分をどう展開していくか具体的に計画の中に入れてもらいたい。」(商業関係者)など、各事業者から切実な思いを反映したさまざまな意見が出されました。

今後、これらの貴重な意見を反映させ、さらなる内容の検討を進め、今年度中に「福島県農林水産業振興計画」を取りまとめる予定です。



(意見交換会の様子)



## 「いわき地方における 地産地消推進のための 取組方針」を 策定しました

福島県農林水産部では、毎年10月、11月の2ヶ月間と毎月8日(ごはんの日)を地産地消強化月間とし、平成17年から地産地消の推進に取り組んできましたが、現在は、東日本大震災の影響により、地産地消の大前提である県産農産物に対する信頼が回復していない状況にあります。このため、農林事務所では、平成24年6月から、目に見える形での情報共有を目的として、モニタリング調査結果を地産地消、グリーン・ツーリズム、学校関係者に郵送するほか、事務所入り口に掲示する取組を行ってきました。

これに加えて、11月にいわき地方における地産地消の取組を広く周知することにより風評を払拭し、福島県の農産物の消費拡大を図ることを目的として、「いわき地方における地産地消推進のための取組方針」を策定しました。

この方針は、食彩ふくしま地産地消推進店(1)に呼びかけ、いわき農林事務所が独自に定めた地産地消推進日(2)における旬の素材を使用したメニューが報告されたものについて、農林事務所がその取り組みを広く発信するものです。

11月から、各店からの情報をお知らせしますので、ぜひご賞味いただき、県産農産物の応援をお願いします。

### 1 食彩ふくしま地産地消推進店 (平成20年度~)

県が進める地産地消の趣旨に賛同し、地元をはじめ県内産の農林水産物を積極的に利用する飲食店であると、県が認証した店舗。

### 2 地産地消推進日(平成24年度~)

(1) 10・11月の  
8日、18日、28日

(2) 毎月8日  
(ただし、10・11月を除く)

① いわき回転すし すし八(平字童子町)  
メニュー：メヒカリのかき揚げ  
説明：いわき市の魚であるメヒカリを子どもにも食べられるように、内臓を含む唐揚げではなく、かき揚げにしている。



- ② 一膳（平字童子町）  
 メニュー：さんまの開き  
 サバ文化干し  
 説明：または いわき産サツマイモ  
 （天ぷらまたは煮物）をサービス。  
 御飯は天のつぶ（会津産）を使用。
- ③ いわきいきいき食彩館委員会  
 スカイストア（平字一丁目）  
 メニュー：日替わりランチ（月～金曜）  
 説明：いわき産のこだわりの食材を生かした料理（県産の米、野菜等を含む）
- ④ エル・トマ（鹿島町久保）  
 メニュー：麓山高原豚コースガーリック  
 説明：県産の豚肉、トマト、パプリカ等を使用。



## 米の安全・安心PR イベントを開催しました

11月15日（木）、いわき市鹿島町のヨークベニマルエブリア店において、24年産米の生産状況や県産農産物の安全・安心の取り組みについての説明イベントを行いました。イベントは、郡山、福島に続き、今回のいわきは、3か所目です。

説明イベントは、12時からと13時からの2回行われ、まず県農林水産部農産物流通課長から米の全袋検査や生産から流通までのモニタリング、ホームページなどによる情報公開など県の取り組みについて説明がありました。参加したのべ約200名ほどのお客様は、何度もうなずきながら説明を聞いていました。

その後、「うつくしまライシーホワイト2012」から県オリジナル米である「天のつぶ」500グラム袋と手ぬぐいがお客様にプレゼントされ、県産農産物の消費拡大をPRしました。



（説明の様子）



（天のつぶと手ぬぐいをプレゼント）

## 一般情報



## 「天のつぶ」生産現地 検討会を開催しました

9月6日（木）、いわき市四倉町玉山において、市内の水稻生産者、米穀業者及び関係機関の担当者を対象に、いわき地方「天のつぶ」生産現地検討会を開催しました。

20名余りの参加のもと農林事務所から今年度の気象と管内生育概況、「天のつぶ」の品種特性と展示ほの生育概況に関する説明を行った後、「天のつぶ」の熟期や草姿、耐病性及び耐倒伏性などについて、ほ場で検討を行いました。

検討会では「天のつぶ」の品種特性について活発な意見交換が行われ、特に、本年度の作付け者からは栽培時の感想及び注意事項の説明がなされ、来年度作付けを計画している方は、作付けの参考にしていたようでした。

今後は、来年度の作付け推進に役立てるべく、12月中旬頃に「天のつぶ」の食味検討を含めた今年度の成績検討会を開催する予定です。

その後、「天のつぶ」は、9月中～下旬頃に大部分の収穫を終えました。昨年度から始まったいわき地方における「天のつぶ」の作付けは、本年度目標の50haに対し118ha（種子配付量から推計）と2倍以上が作付けされ、今後、「コシヒカリ」、「ひとめぼれ」と並ぶ主力品種として、いわき地方の稲作を担っていくことが期待されています。また、「天のつぶ」の品種特性及び本県オリジナル性を活かした県産米を生産者の意向が反映されるような販売につなげていく予定です。



（天のつぶ現地検討会の様子）



（天のつぶ現地検討会の様子）

## ふくしまの新しいお米「天のつぶ」

「天のつぶ」は、平成7年に、福島県農業試験場（現福島県農業総合センター）において、耐倒伏性が強く、食味が良好な品種を目指し育成を始め、15年の歳月をかけて完成した県のオリジナル品種です。穂が出るときに天に向かってまっすぐ伸びる稲の力強さと、天の恵みを受けて豊かに実る一粒一粒のお米をイメージして命名しました。

### 「天のつぶ」の特徴

食べ応えのあるしっかりとした食感  
炊きあがりの香りが良く光沢があり、  
粒がそろった美しい米

おいしいご飯は、まず炊きあがりの香りが甘く鼻を抜け、快感をくすぐり、さらに口の中で一粒一粒がほぐれ、ソフトに混じり合います。

「天のつぶ」はまさにそんなお米で、炊きたてはもちろんのこと、冷めてもおいしく、「ひとめぼれ」「コシヒカリ」に匹敵します。玄米のタンパク質含有率は、「ひとめぼれ」「コシヒカリ」並、白米のアミロース含有率は、「ひとめぼれ」並で粘りが強く良食味です。

お米マイスターによる食味評価では、食感がしっかりしており、比較品種と同様以上の評価を得ています。

粒ぞろいが良く、光沢があり、しっかりとした食感が楽しめる「天のつぶ」をぜひご賞味ください。



**「木づかい運動」顕彰で  
(社)日本ログハウス  
協会東北支部と  
(株)磐城高箸が表彰  
されました**

国産材の利用促進に貢献した企業・団体を表彰する平成24年度「木づかい運動」顕彰の東日本大震災復興特別部門において、いわき市産のスギ材等を利用したログハウスの仮設住宅を建設した(社)日本ログハウス協会東北支部といわき市産等の間伐材を利用した割箸を製造している(株)磐城高箸が選ばれました。

(社)日本ログハウス協会東北支部は、県の応急仮設住宅の公募でログハウス約600戸を建設し、いわき市産のスギ材を中心に福島県産スギのログ製材品約6千m<sup>3</sup>を使用し、県産材の利用拡大に貢献しました。

また、いわき市産のスギ材の使用に当たっては、原木の伐採搬出からログ材の加工までいわき市内の各事業者が連携し、短期間でログ材の供給を行っています。

(株)磐城高箸は、被災した3県の復興を願って、いわき市産の磐城杉、宮城県栗原市周辺で産出する栗駒杉、岩手県陸前高田市付近で産出する気仙沼杉の各々の間伐材を使用した割箸「三県復興希望のかけ箸」を製造しており、今回の受賞となりました。

なお、平成23年度の間伐・間伐材利用コンクールでも「暮らしに役立つ間伐材利用」部門で間伐推進中央協議会会長賞を受賞しています。



(ログハウスによる応急仮設住宅)



(割箸製造に励む高橋さんと「三県復興希望のかけ箸」)



**地域産業6次化  
ネットワーク  
クラスター分科会を  
開催しました**

いわき農林事務所では、“サンシャインいわき”の農産物を使った特色ある特産物を創出する「クラスター分科会」の第1回と第2回を開催しました。

いわき市内の農林業者及び加工業者7事業者が分科会構成員となっています。

10月19日(金)の第1回分科会では、コーディネーター(1)の橘あすか氏(2)を中心に、はじめに開発する商品について検討しました。その結果、製造工程が少なく開発が容易で、製造コストも比較的




安価であり、さらに冷凍による長期保存が可能のため販売コストにおいて有利なジェラートを開発することとしました。

次に、ジェラートに使う材料の検討に入り、ナシやネギなどの農産物、ウニやカツオ節などの海産物、日本酒や椎茸焼酎などのお酒など、さまざまな農林水産物や農林水産物加工品を材料に使ったジェラート13種類を試作することになりました。

11月12日(月)の第2回分科会では、13種類のジェラートを試食し、使用する材料の絞り込みと材料の組み合わせについて検討しました。クラスター分科会はさらに2回開催され、年度内に試作品を完成させる予定です。

- 1 コーディネーター  
商品開発から販売まで一貫して分科会の運営を中心となって総合調整する人

- 2 

|   |   |
|---|---|
| 【コーディネーター紹介】  |   |
|    | (株)福岡インフォメーションリサーチ&マネジメント<br>代表取締役 橋 あずか氏 |
| 国立福岡工業高等専門学校 建設環境工学科 卒業<br>福岡大学 共生システム理工学研究科 卒業<br>建設コンサルタントを経て平成19年に起業し、<br>いわき市産学官連携アドバイザーとしても実績多数<br>専門はリサーチ、販売・マーケティング、地域づくり等 |   |



(分科会の様子)

## 「ふれあい農業講座」が 開催されました

10月25日(木)、いわき市立山田保育所において、いわき農業青年クラブ連絡協議会主催による「ふれあい農業講座」が開催されました。

いわき農業青年クラブ連絡協議会では、消費者に農業への理解と関心を高め、放射能に対する正しい知識を理解していただくことで農産物の「風評被害」を払拭し、いわき地方農業の復興に繋げるための活動を行っています。そのような中、今年度は、2カ所の保育所及び幼稚園の幼児とその保護者を対象にした「ふれあい農業講座」をそれぞれ4回程度開催することとしています。

今回の講座は、山田保育所の幼児たちと上山田老人会会員との交流会を兼ねて行われました。交流会の中で、クラブ会員が講師となり、花づくりの注意事項を説明した後、幼児たち及び老人会員とともにプランターへ花の苗(パンジーほか)の移植をしました。幼児たちは、クラブ会員の話を熱心に聞き、楽しみながら取り組んでいました。また、作業終了後の食事会では、本県オリジナル品種「天のつぶ」と「コシヒカリ」で作ったおにぎりや豚汁などがふるまわれ、いわきの味を堪能していました。

花の苗の移植と食事会を通して、幼児と老人会員及びクラブ会員が共にふれあい、いわき農業への理解が一步進んだ講座となりました。



(花を植える様子)



(おいしいごはん)

## いわき市立平第五小学校で 木工工作の出前講座を開催 しました

県では子どもたちが木とふれあう機会を創出するため、森林環境基金事業により、小学校に対して木工工作用資材を提供しています。

10月30日(火)、その資材を活用し、木材の利用と地域の森林林業の関わりについて関心を持ってもらうことを目的に、い

わき市立平第五小学校の3年生55名を対象に、図工「くぎうちトントン」の授業時間内に木工工作の出前講座を行いました。

講師の田人林業研究会の豊田会長より木や林や森と人との関わりについての話や金槌、釘抜きの使い方の説明のあと、各々製材端材に釘を打ちつけ、持参した材料で飾り付けを行いました。

半数の児童は釘打ち体験がなく今回が初めての体験でしたが、真剣に取り組み、思い思いに作品を仕上げ、今回の体験を通じて木や森林に対し興味や関心がわいた様子でした。



(木工工作の様子)



(説明を聞く児童たち)



## 「田んぼの学校」脱穀

「田んぼの学校」とは、『「ふくしまの農育」推進事業』の一環として、一年間を通して主に米づくりに関わる仕事を体験する環境教育事業で、本年度はいわき市立赤井小学校と連携し、主に5年生児童65名を対象に実施しています。

11月8日(木)、今年度第6回めの活動として脱穀を行いました。

はじめに農林事務所のあいさつがあり、その後地元協力者の根本さんから「脱穀」の意味と具体的なやり方についての説明を受け、脱穀を開始しました。

児童たちは、稲刈りの時に棒がけて天日干ししておいた稲の束を順番に脱穀機にかけ、次々に脱穀していきました。また、脱穀した後の藁の束や稲の束を棒がけていた棒は、児童たちが協力して片付けました。

児童たちが手際よく作業したこともあり、すべての作業を1時間程度で終えることができました。

最後に根本さんから本日の活動について感想を述べていただき、農林事務所から次回の活動として11月27日(火)に収穫祭を行うことを報告し、今回の活動を終了しました。



(脱穀機にかける様子)



(棒がけていた稲)



## いわき農林事務所からのお知らせ

ふくしまの最新情報を「ふくしま 新発売。」に掲載していますのでどうぞご利用ください。

<http://www.new-fukushima.jp/index.html>

- 1 「がんばろう ふくしま応援店！」一覧
- 2 イベント情報
- 3 農林水産物モニタリング情報
  - (1)モニタリング情報検索
  - (2)出荷制限等一覧表

「東日本大震災」  
及び「原発事故」からの  
復興のために！



皆様からのご意見・情報をお待ちしております。  
福島県いわき農林事務所 企画部 地域農林企画課  
〒970-8026 福島県いわき市平字梅本15番地  
(県いわき合同庁舎 3階)  
T E L (0246)24-6152 F A X (0246)24-6196  
U R L <http://www.pref.fukushima.jp/norin-iwaki/>  
E- Mail [iwaki.nourin@pref.fukushima.lg.jp](mailto:iwaki.nourin@pref.fukushima.lg.jp)

